

「Bósforo プロジェクト」による太陽光発電所の建設：報道

5月23日、AES（エルサルバドル配電会社）及びCMI（la Corporación Multi Inversiones）の投資による初めての太陽光発電所開所式が東部ラ・ウニオン県パサキーナ市で開催された。同発電所には4万4千台の太陽光パネルが設置され、投資総額1,600万ドル、発電容量は10メガワットとなる。

上記太陽光発電所建設は、「Bósforo プロジェクト」の一部であり、同プロジェクトでは今後2年間に10基の太陽光発電所の建設を行い、総投資額は1億6,00万ドルとなる予定。なお、総投資額の70%はオランダ開発銀行（FMO）、米国海外民間投資公社（OPIC）、中米経済統合銀行（BCIE）、フィンランド産業協力基金（FINNFUND）による融資。

東部ラ・ウニオン県においては、他に2箇所の太陽光発電所の建設が予定されており、発電容量は30メガワットとなる。

Bósforo プロジェクトの第2フェーズでは、サンタアナ県、ソンソナテ県及びウスルタン県の西部地域に4基の太陽光発電所の建設を行い、発電容量は40メガワットとなる。

第3フェーズでは、当国中部地域に3基の太陽光発電所の建設を行い、発電容量は30メガワットとなる。